

TEISO TOYOKA NEWS

2016年6月号 VOL.89

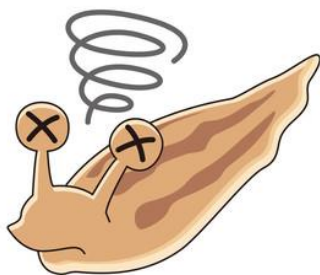
企画・発行：(株)テイソトヨカ 四日市技術研究所
掲載している記事の無断使用を禁じます。〈URL〉 <http://www.teisotoyoka.com> 〈E-mail〉 info@teisotoyoka.com

ジメジメした季節到来 ナメクジ対策

湿度が上がリ、私が執筆を始めた6月上旬には弊社四日市技術研究所があるここ三重県四日市市でも梅雨入りとなりました。これからは雨の日が多くなって、ますますジメジメした環境が続くこととなります。そんな時、姿を現す厄介な生物があります。ナメクジです。市街地でよくみられるチャコウラナメクジ(写真1)は一年中活動していますが、梅雨時期になると特に多数出現するようになります。食性は雑食性で、野菜・柑橘・朽木など様々な植物を摂食し、ハマキガ類の卵塊を摂食することもあります。ナメクジの口の中には歯舌という人間の歯のようなものがあり、そこで食物を削り取って食べます。普段は野外に生息していますが、屋内へも湿気や食べ物を求めて侵入してきます。そのヌヌとした動きや外見から不快な生物とされていますが、広東住血線虫という寄生虫の中間宿主となることがあります。この寄生虫に人間が感染してしまうと、激しい頭痛・発熱などを引き起こすことから、衛生上でも問題となります。



写真1 チャコウラナメクジ



そんなナメクジの昔からの対策で、塩をかけて溶かすというものがあります。ただ、これは溶けているのではなく、体内の水分が浸透圧の差で排出される現象によりナメクジが萎んでいるだけで、水気のあるところに逃げてしまえばまた元通りに戻ってしまいます。そのため塩をかけてやる時は、水気のないところでナメクジの体が全て隠れるくらいたっぷりかけてやらないといけません。他の対策としては、ナメクジはビールによく集まるので、飲み終えて中身を少し残したビール缶をトラップとして侵入経路と思われるところに設置し、集まったところを熱湯で一網打尽にする方法があります。市販の薬剤でも、ナメクジを誘引し食べさせて駆除する毒餌タイプのものや、寄り付かないようにさせる忌避剤タイプのものもあります。ジメ

ジメとした日が続いて気分も暗くなってしまいますが、ナメクジ対策をしっかりして少しでも晴れやかな気分で皆様が過ごせることを願っております！ (I.R.)

【参考HP】

国立環境研究所 侵入生物データベース； <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/>



今月のオススメ 電池で動くコンパクトな業務用飛翔昆虫防除器 STRONTEC®

気温はここ最近上昇し続け、梅雨入りとなりました。梅雨が明けると本格的な夏となります。前述のナメクジだけでなく、他の昆虫たちの活動もより活発化してきます。飲食店や工場の方々は、この時期、店内や工場内に昆虫たちが侵入しないように四苦八苦されていることと思います。そんな侵入対策に効果的な商品をご紹介します。

本製品は液剤を微粒子として拡散させる特許技術を活用することで、より高い防虫効果を発揮します。有効成分はピレスロイド系のプロフルトリンというもので、昆虫に対して速効性があります。また成分の分解性が高く残留が少ないため、人や環境に対する安全性が高いという特徴があります。

「虫を寄せ付けないのはいいけど、お店の雰囲気壊さないかしら？」といった心配も、STRONTEC®であればご心配いりません。本製品はコンパクトかつスリムなデザイン(高さ20cm×幅4cm)で、色もホワイト調なので悪目立ちしません。さらに、微粒子として液剤を拡散するので、本体からは目に見えるような煙は出ません。

壁に設置する際も、ネジ止めまたは両面テープで、どなたでも簡単に取り付けすることができます。効果は単3型乾電池2本で最長3ヶ月間持続し、コンセントなどの電源を必要としないため、設置場所にも困りません。

STRONTEC®に関するお問い合わせはテイソトヨカまで！



メルマガ会員募集中!

自然の復元力 Vol. 69

生き残り戦略-5 : 変態

今回は、昆虫の生き残り戦略で最も重要な一つである「変態」についてです。多くの昆虫は、幼虫と成虫とで生活域を異ならせています。例えば、蚊の幼虫であるボウフラは水中で生活しますが、成虫は陸上を飛びながら生活し、食べる物も違います。このように、生活域を別にすることによるメリットは何かというと、成虫と幼虫が同じ餌資源を奪い合うことがないことです。そして、幼虫は十分に餌を食べて速やかに成長することが求められ、成虫は次世代の種の維持のために、生殖活動に専念しています。即ち、幼虫は食べて早く大きくなることが役目であり、成虫は子孫の繁栄のために、繁殖の役割を担っているのです。多くの昆虫は成虫になるとき翅を持ちます。雌成虫は、遠方にいる雄成虫に自分の存在を、性フェロモンを分泌して報せます。そして雄は遠方から雌をめぐってやってきます。遠方にいる異性との交流において、飛翔性の獲得は非常に意義があることが分かります。また、完全変態の昆虫類は、成長のステージによって生息場所を変えることで、生息場所悪化に伴う死滅のリスクを分散することができ、環境変動があっても絶滅することなく生き延びる確率が高くなると考えられます。ゆえに完全変態の昆虫群は、昆虫類の中でも、進化の最も進んだグループとみなせます。

変態は脳から分泌された脳ホルモンに誘導されて生じることが分かっています。脳から分泌される脳ホルモンは、一方では胸腺を刺激させ、そこから脱皮ホルモンを分泌し脱皮を促したり、他方ではアラタ体を刺激して幼若ホルモンを活性化させ、脱皮後の形質が幼体になるよう指示します。昆虫は堅いクチクラによって外皮を形成するため、大きく成長するには限界があり、幼虫は脱皮によって成長する以外はありません。

変態過程で出来る翅という大発明はどのようにして生まれたか、まだ明らかになっておりません。昆虫の中で最初に翅を獲得したのは、カゲロウとトンボの仲間と考えられており、それらを旧翅類と呼び、旧翅類の幼虫はすべて水生であるという特徴があります。次いで進化した翅を持ったグループを新翅類と呼び、構造上翅を背中に重ねるように折りたたむことができるよう翅の基部が蝶番になっています。蝶番になってない旧翅類とは違い、新翅類は翅で腹部を保護できることや、狭い隙間に潜り込めるといった利点がみられます。なお、ほとんどの昆虫が飛翔性を獲得したにもかかわらず、ハジラミ目、シラミ目、ノミ目など飛翔性を放棄した昆虫もいます。

変態には完全変態(蛹期があるグループ)、不完全変態(蛹期がないグループ)があり、不完全変態には小変態(幼虫と成虫がよく似ているグループ)や半変態(幼虫と成虫の形態や生息環境が異なるグループ)があります。即ち、完全変態の昆虫の成長は卵⇒幼虫⇒蛹⇒成虫と成長する育ち方であり、モンシロチョウ、カブトムシ、ハエ、蚊、ハチ、アリ、テントウムシなどがそれに該当します。不完全変態の成長は、卵⇒幼虫⇒成虫と成長し、蛹期がありません。幼虫の形質と成虫の形質は似ていますが、翅の有無によって区別され、ゴキブリ、バッタ、カミキリ、セミなどが該当します。(Sin)



シロアリ対策のご依頼は弊社まで!!!

6月となりましたが、まだまだシロアリに注意が必要です。皆様方の住んでいる住宅は大丈夫ですか？シロアリには、翅がある有翅型と翅のない無翅型がいます。右の写真のような有翅型のシロアリが結婚飛行をすることで、新たな場所で巣が作られてしまいます。

床下や窓の近くで大量の細長い黒っぽい翅が落ちていたら要注意！シロアリが大切なご自宅に巣を作り始めているかもしれません。

弊社ではシロアリの営巣箇所を直接たたくだけではなく、地面に潜伏するシロアリを調査してシロアリ被害拡大の予防も行うことができます。

**シロアリ被害でお困りの方、シロアリ調査ご希望の方はテイソートヨカまで！
(見積無料です)**



ヤマトシロアリ有翅虫



Eco Friendly Pest Management
自然にやさしい総合的有害生物管理
株式会社テイソートヨカ

IPM・コンサルティング・異物同定分析
有害生物(ネズミ、ゴキブリ等)管理・ノラバト飛来防止施工

〈URL〉 <http://www.teisotoyoka.com> 〈E-mail〉 info-teiso@teisotoyoka.com

本社・名古屋東営業所	〒468-0045	名古屋市天白区野並 2 丁目 334 番地の 2	TEL 052-891-8311	FAX 052-891-8440
名古屋西営業所	〒453-0818	名古屋市中村区千成通 4 丁目 18 番地	TEL 052-482-6591	FAX 052-482-8778
三重営業所	〒510-0863	三重県四日市市大字塩浜 4005 番地 1	TEL 059-345-3571	FAX 059-345-3572
岐阜営業所	〒501-6264	岐阜県羽島市小原町 4 丁目 61 番	TEL 058-392-6454	FAX 058-392-6407
北陸営業所	〒920-0356	石川県金沢市専光寺町 47 番地 1	TEL 076-266-6474	FAX 076-267-6480
富山営業所	〒939-8261	富山県富山市萩原 42 番地 1	TEL 076-481-6474	FAX 076-481-6471
新潟営業所	〒950-0993	新潟県新潟市中央区上中 2 丁目 1 番 7 号	TEL 025-283-6474	FAX 025-283-6497
四日市技術研究所	〒510-0863	三重県四日市市大字塩浜 4005 番地 1	TEL 059-325-6431	FAX 059-325-6430